

開門による影響を比較衡量し、総合的に判断すれば、開門すべきではない。

- 1 防災面では、新たに樋門・樋管の管理や排水ポンプの増強が必要など、塩水が背後地に浸入しないよう樋門を常時閉鎖するため、現在の自然な流れが阻害され、防災機能が低下。
- 2 農業面では、農業用水源である調整池が塩水化し、農業用水源を失うとともに、農作物に塩害や潮風害が発生する危険。
- 3 漁業面では、海域への濁り等による漁業被害が懸念。
- 4 環境面では、調整池において淡水性魚介類がへい死するなど、生態系に悪影響。海域での魚類、生物・生態系への影響は予測困難。

潮受堤防を開門すると、

- ① 農地に海水が入らないよう樋門を閉じる必要がある。
- ② 溜まった水は、新たにポンプを設置して排水する。

雨天時の増水分はポンプの能力が足りないため樋門を開ける必要があるが…

- ・ 海水が入ってくる可能性があるため、いつでも開けられるわけではない。
- ・ 昼夜を問わない、雨が降る中での開閉作業は危険を伴う。
- ・ 海水侵入を防止するためには約300の樋門や樋管の管理が必要。

